

地域公共交通・デザインの 司令塔を全国津々浦々に！

「双楽」を支える持続可能な公共交通と地域の発展
この一歩に力をつけて。
～自治体、協議会、そしてプロデューサーの役割～
相楽
JR西日本 早川 京都市 八田直哉 京都市 八田直哉 京都市 八田直哉 名古屋大学 加藤博和



地域公共交通プロデューサー・名古屋大学大学院環境学研究科教授
加藤博和

相楽東部地域公共交通シンポジウム
地域のみんなが「おでかけ」したくなる
公共交通をつくりだそう
暮らして楽しい 訪れて楽しい まちづくり
「双楽」を支える公共交通

令和4年6月18日(土) 14:00~16:30

主催：JR関西本線(加茂以東)沿線地域公共交通活性化協議会
(笠置町、和束町、南山城村、京都府ほか)

相楽東部地域公共交通シンポジウム「地域のみんなが『おでかけ』したくなる公共交通をつくりだそう」_2022年6月18日(土)

限定公開

地域 戦略地域
チャンネル登録者数 42人

チャンネル登録

高評価 共有

363 回視聴 5か月前に配信済み

名古屋大学 加藤博和 2024/02/09

金剛自動車(金剛バス)

2023年12月20日をもって事業廃止

- 京阪神ではレアな非電鉄系事業者
- 近鉄南大阪線区沿線、あべの橋から30分圏で事業展開。利用者も本数も多かった
- しかし自治体とは没交渉。地域公共交通会議に委員を長年出さなかった極めて珍しい事業者。国庫補助ももらっていなかった
- 赤字転落、コロナ禍で状況悪化、運転者不足が深刻化し、事業継続不可能に
- 廃止の発表は2023年9月11日(3か月前、道路運送法は6か月前届出を規定)。それ以前から自治体は善後策を検討していたが、発表時点で代替策はなかった
- 10月1日!、沿線市町村合同の地域公共交通活性化協議会が発足。検討を急ぐ
- 廃止翌日から近隣の近鉄バス・南海バスと自家用有償運送でカバー(奇跡に近い!)。しかし運行本数は6割に。廃線区間も

JRバスが園福線の廃止前提に地元と協議 国鉄から引き継ぎ34年、利用者6分の1に

2022/12/23(金) 14:43 配信 52



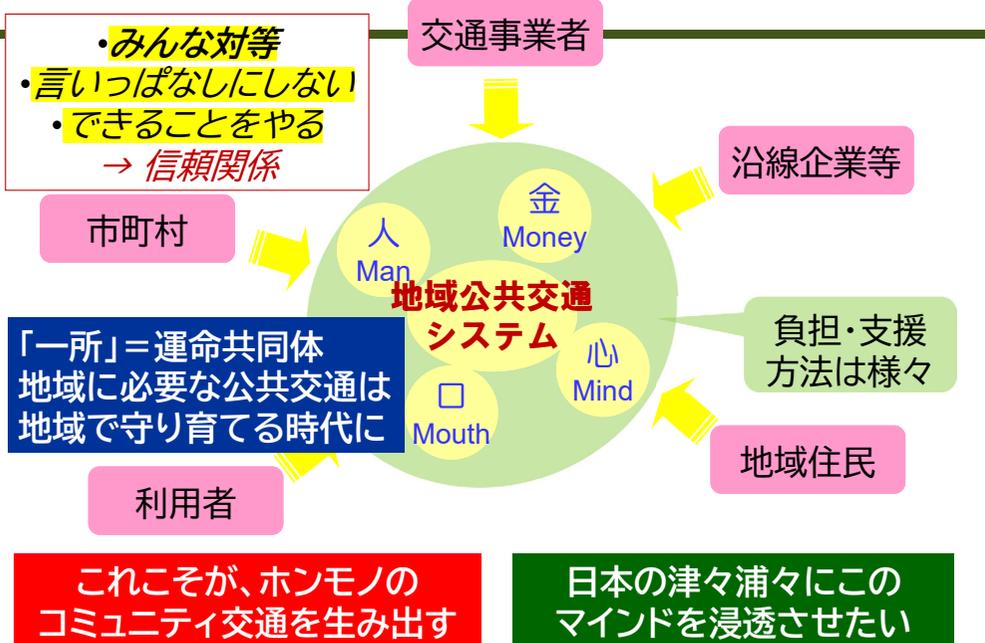
JR福知山駅を出発する園福線の路線バス

西日本ジェイアールバス(大阪市)は22日、生活交通の確保について沿線自治体などで協議・調整する「京都府生活交通対策地域協議会」に対し、福知山駅から南丹市の園部駅までを結ぶ「園福線」の今後の運行が困難と申し出た、と発表した。利用者の減少で新型コロナウイルス禍前から赤字が続いており、廃止を前提としている。

1988年3月に設立した同社では、旧国鉄から引き継いで園福線を運行。福知山発着便は94年度には一日25往復あったが、徐々に減便し、今年4月からは一日5往復になっていた。

1939(昭和14)年運行開始
南丹市・京丹波町・福知山市を結ぶ51.8kmの路線

「一所懸命」みんなでつくり守り育てる：まさに共創



住民懇談会や地域公共交通会議・協議会は意見集めの場ではない

- ・ 諮問機関でも意見聴取機関でもない。ステークホルダー間利害調整と、様々なプレイヤーの共創を図り、実際にリ・デザインを進めていく組織
- ・ よって、地域公共交通に関係が深いメンバーは必須たとえば高校生や親、病院・商業施設等主な先行

熟議の場(ひょうたんからコマ)

- アイデアを出し、たたき、案をまとめる

作戦会議の場(役割分担と連携)

- 実現・運営方法を考える

その意味で、協議会という名は不適切

計画推進本部と言い換えるべき！

地域公共交通計画っていつつくるの？ 今でしょ！

地域公共交通政策の「憲法」

- 本気で取り組むなら当然つくらないといけないもの
- つくらないで、場当たりのでない政策推進ができるのか？
- 住民・利用者や首長・議員・他部局に(そして永田町・霞ヶ関の皆様)公共交通の必要性を訴えられるのか？

何を書くのか？

- なぜ地域公共交通が必要か？(目的)
- それを実現するために、公共交通網をどうつくりかえ、どう魅せていくか？(適材適所)
- そのためだれが何をし、協働するか？(一所懸命、組織化)
- 計画の進行をどう確認し見直すか？(カイゼン)
- 担当者の「遺言」(政策の継続性)

※できる限り短く！

ありがちな「ダメ計画」

協力・協議調整	2021	2022	2023	2024	2025	2026 以降
県・沿線自治体	関係者協議・調整・検討					
交通事業者	地域公共交通確保維持事業の活用による路線維持 (地域間幹線系路線)					
交通事業者	地域公共交通確保維持事業の活用による路線維持 (フィーダー系路線)					
バス協会・タクシー協会 国土交通省	市・地域住民・交通事業者の三者協働での協議、検討、実証実験実施 本格運行のルールづくり 状況に応じた本格運行への移行					
地域住民 警察・国土交通省・県	自動運転、MaaS*の実装に向けた取組 その他、新たな輸送サービスの導入に向けた社会実験への参画					
交通事業者	国の各種支援策の活用 (※国の支援の 公共交通の安全性のPR (※ワクチン開					
交通事業者	モビリティマネジメントの実施 (※ワクチン開					
協力・協議調整	2021	2022	2023	2024	2025	2026 以降
市・交通事業者	地域組織の立ち上げ (各年度1地域以上)・運営支援					
バス事業者	地域の要望に応じた出前講座の実施					
-	庁内調整の実施					

えっ？2026年度以降も検討なの？ しかも1.1が！
検討ばかりで実行なし！
これが計画と言えるのか？

リ・デザインに
全くかすりもしない

国が丸抱えしてくれたら ありがたいような気がするけど・・・

昭和時代はそうだった

鉄道・乗合バス・タクシーは国の認可制
需給調整規制(参入退出規制)の下、

独占事業者が「内部補助」によって路線網維持

- 自治体・地域は要望か陳情、あるいは(事業者がやってくれず、事業者の邪魔にならない場合のみ)自力で走らせるかしかできない
- 一方、地域が何もしなくてもそれなりに維持されるので、公共交通が必要という認識や貢献への意欲が生まれない(モラルハザード)

→ その結果、地域公共交通が衰退したのではないかと？

(いまのJRローカル線がモロにそれ！)

→ 令和時代のいま、独占事業者の代わりに国が丸抱えしたら・・・

- 地域が本当に望むニーズが分からず、地域に合った便利な公共交通サービスが提供されないのでは？
- ビジネス的な発想に欠け、赤字垂れ流しになるのでは？(高度成長期ならいざ知らず、人口減少下でいったいだれが払うの?)



岐阜県白川町・東白川村 (白川郷<白川村>ではない)

- ◆ 人口約9千人、5年人口減少率11%、高齢化率46%
- ◆ 山間地域。お茶とヒノキで有名

- 4つの谷を1日数便のバス(民営)がJR白川口駅まで走り、主な集落で通院通学・来訪可能(町村補助で維持)
 - しかし、運転手が定員の半分しか確保できなくなり、2016年4月から大減便、休日全休。タクシーもゼロに
 - 2つの谷で高校通学不可能に
- ※町内唯一の高校は2007年閉校

町長への投書
「この町に、私たち高校生は
住んじゃいけないんですか？」

岐阜県白川町・東白川村 「おでかけ」システム

身近で便利な公共交通を目指して

白川町・東白川村の新しい公共交通がいよいよスタート

2018年10月1日スタート

- 路線バス事業者
 - タクシー事業者
 - 住民ボランティア
- がタッグを組んで、高校通学・高齢者移動をカバー

白川・東白川地域公共交通網形成計画(2018年8月策定)に基づく

おでかけ しらかわ・ひがししらかわ

- ◆ だれでも気軽にお出かけできるしくみ◆
- 濃飛バス「白川中央線」と「白川東白川線」を運行
- 濃飛バスに乗り継ぐ「予約制バス」を白川町内各地区から運行
- ◆ 高校生が自宅から通学できるしくみ◆
- 行きは朝7時台、帰りは夜19時台までのJRに合わせて、濃飛バス「白川東白川線」と「JR接続便」を運行することで、白川町・東白川村内全ての地域から高校通学が可能

バスの種類 (どなたでもご利用できます)



濃飛バス



予約制バス



JR接続便

4条事業者の安全・安心・安定感
は得難い
できる限り守る

白川中央線、白川東白川線の2路線です。定時定路線で運行します。予約は不要です。

地区内・地区外の商店・病院・施設への利用ができます。乗り継ぎ場所にて白川中央線に乗り継ぐことができます。予約が必要です。裏表紙を参照ください。予約制バス乗降場所から自宅から利用できます。

JR白川口・下油井駅へ、朝(行き)と午後(帰り)に運行しています。予約が必要です。裏表紙を参照ください。予約制バス乗降場所から乗車してください。

自家用有償
運送をうまく
活用
(安全確保は絶対)

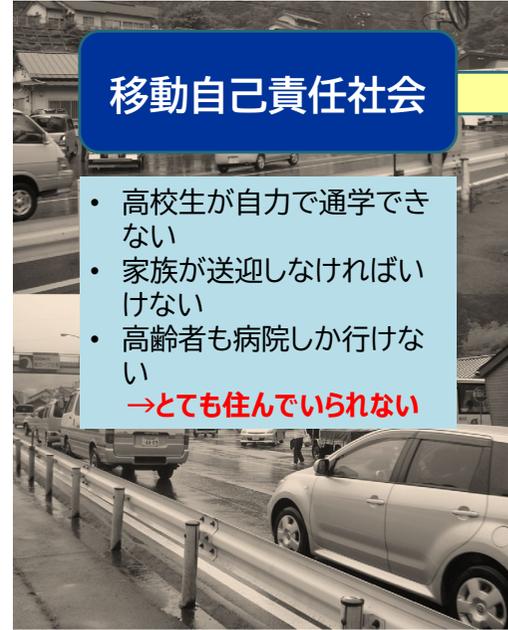


JR白川口駅前の平日朝7時少し前の様子
左:2017年 右:2022年



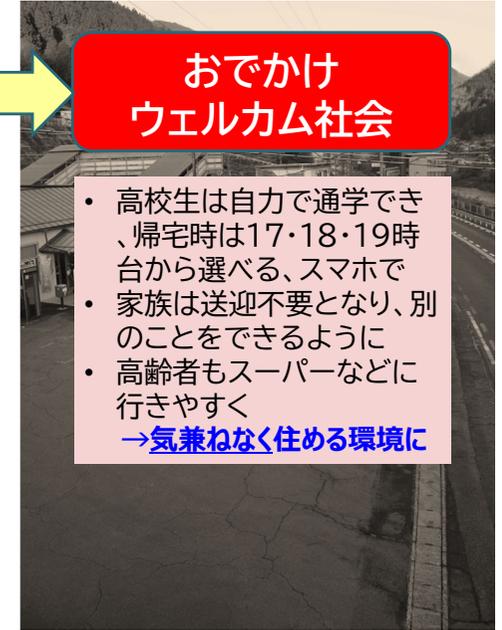
名古屋大学 加藤博和 2024/02/09

JR白川口駅前の平日朝7時少し前の様子
左:2017年 右:2022年



移動自己責任社会

- 高校生が自力で通学できない
- 家族が送迎しなければいけない
- 高齢者も病院しか行けない
- とても住んでられない



おでかけ
ウェルカム社会

- 高校生は自力で通学でき、帰宅時は17・18・19時台から選べる、スマホで
- 家族は送迎不要となり、別のことをできるように
- 高齢者もスーパーなどに行きやすく
- 気兼ねなく住める環境に

名古屋大学 加藤博和 2024/02/09

中日新聞 2021/08/17 岐阜県 可茂版

すいとん汁を味わう利用者ら=可児市広見の「ふる里の家」で

町営バスに段階的統合

10月から 白川病院の通院用バス



加藤教授を立ち会ひの下、覚書を交わした横家町長と野尻理事長兼院長=白川町の白川病院で

白川町は十月から、民間の白川病院(同町坂東)が患者の通院用に運行する無料バスを、町営バスに段階的に統合していく。重複運行を解消して増便すること、利用者の利便性向上や運転手確保の課題解決に

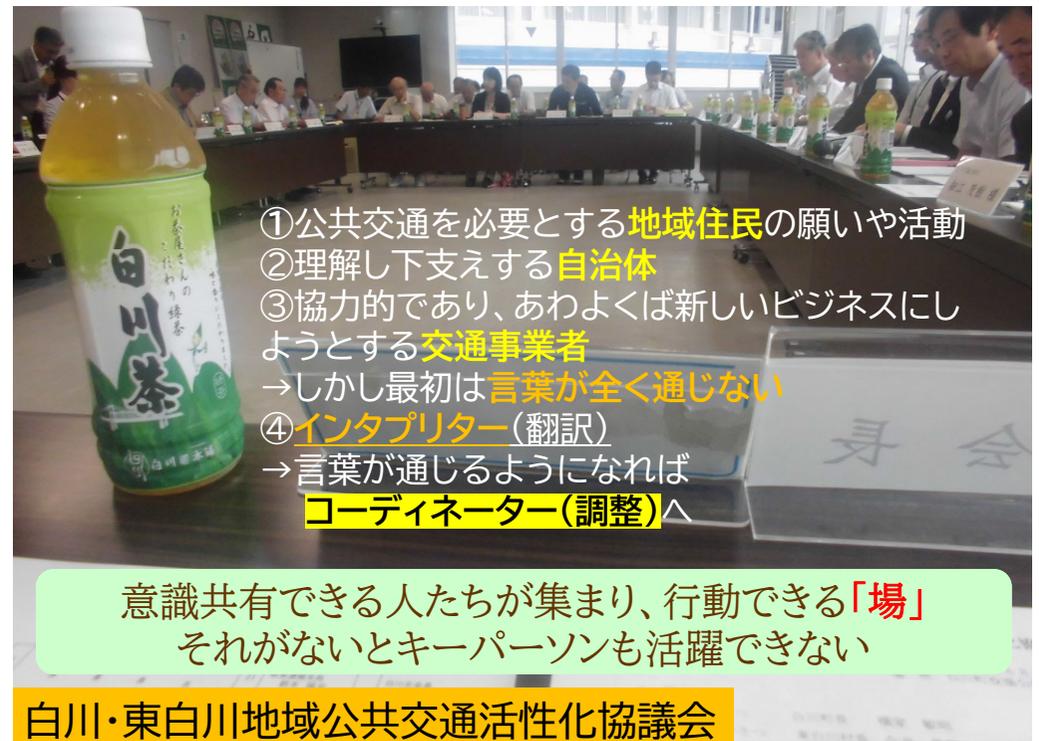
つなげる。通院患者の利用料は統合後も無料を維持する。

第一弾として白川病院バスの東白川線と黒川線の二路線を廃止し、町営バスの白川東白川線と白川中央線に組み込む。その後も路線

- 白川・東白川では、民間病院が通院バスを走らせていた(病院が自治体の交通施策を信じていなかった)
- そのため、高齢者の移動手段への不満は少なかった
- しかし通院バスでは買い物に寄れないし、路線バスと重複して非効率
- そこで、町と病院で交渉を重ね、統合決定(2021/10/1から順次)
- 通院バスより多くの通院者が利用するように
- 病院の費用負担も削減(1日乗車券を購入し通院者に配布)
- ※町長は2021/9/12退任(最後の大事な仕事だった)

自身へのメリットと地域貢献を示せば納得いただける

名古屋大学 加藤博和 2024/02/09



- ①公共交通を必要とする地域住民の願いや活動
- ②理解し下支えする自治体
- ③協力的であり、あわよくば新しいビジネスにしようとする交通事業者
- しかし最初は言葉が全く通じない
- ④インタプリター(翻訳)
- 言葉が通じるようになれば
- コーディネーター(調整)△

意識共有できる人たちが集まり、行動できる「場」
それがないとキーパーソンも活躍できない

白川・東白川地域公共交通活性化協議会

名古屋大学 加藤博和 2024/02/09

魅力的な地域公共交通の「プロデュース」が肝心

旧弊な公共交通をいかに革新するか (多くの現場は、いまの運行形態では戦えない)

- 「利便性が高く費用の安い公共交通実現」を「現場で」目指す
- 利用者・地域のニーズに応えられる**適材適所な基本コンテンツ**(**系統・ダイヤ・乗降施設・車両**)とシームレスなネットワーク化による「**Maas:1つのサービス**」としてのモビリティ」の提案
 - それを必要とする利用者(運賃)／周辺住民・企業(協賛金)／自治体(補助)の**三方一両損のビジネスモデル**
 - **スピード感と粘り強さを持ち、現場感覚**を起点とした戦略・企画・実施・点検・カイゼンの**スパイラル・アップ**
 - 地域公共交通づくりを通して地域づくりまで高める**運動論**
→ **地域公共交通サービスが、地域の持続性を高めるツールとして機能し、付加価値を発揮するに至るまでのソリューション提示と実現支援**

加藤の主な地域公共交通プロデュース活動

- 分かりやすく、使いやすく、そして「お値打ち」に、みんなの力で！ -

情報提供

- 東海3県(路線図ドットコム <https://www.rosenzu.com/>への協力)
- 岐阜・大村・米子・鳥取(系統・行先番号、マップ、案内板、停留所掲示、方向幕)

住民主導型交通立ち上げ

- 生活バスよっかいち、徳島市応神、松山市チョイソコひさえだ(自律型)
- 松阪市、豊橋市、一宮市(立候補型)

鉄道廃止代替交通確保

- 岐阜600V、飛騨市神岡、愛知県小牧市桃花台、長野電鉄屋代線

タクシー撤退代替交通確保

- 愛知県新城市、三重県紀北町、愛知県安城市

生活圏単位での公共交通再編

- 愛知県北設楽、南信州(飯田下伊那)、岐阜県白川町・東白川村

路線バスとコミバスの一体化

- 飛騨市、稲沢市、西尾市、半田市

路線バスと航路の一体化

- 鳥羽市

公営交通の立て直し

- 名古屋市、長崎県、宇部市

創造的で、しかし
調整力や忍耐力が必要

マッチング：どうやって人・金をまとめるか？

1. 地域でまとめる

- そのための「場」が必要

2. IT・DXでまとめる

- そのための「データ」「モニタリング」が必要

まとめることで、**少ない車両・運転者・CO₂**
で多くの人を運ぶことができ、地域に流れ
をつくることができる

バスのIoT化（センサー・端末化）

- バスロケ
- デジタコ、ドラレコ
- センサー類(乗降等)
- ICカード、運賃箱 など(**走りながら情報収集**)
- **これらからデータをリアルタイムで把握でき、データが蓄積されれば、安全安心性・品質向上、基本コンテンツ改善に大きな効果を発揮**
- **しかし、コストが大きく効果はすぐには出ないのでこの足を踏んでしまう**
→ **データ活用を中心に考えてみるのが大事**
やれることからやってみては？

「法定協議会を活用できる地域共創コーディネーター育成事業」2023年度試行 国土交通省地域交通共創モデル実証プロジェクト採択事業 (国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学)

●今年度の流れ (講座の試行実施)

告知

- 受講生募集 (9月中旬頃から開始)
- **キックオフイベント (10月6日<金>午後開催)**

試行実施 10~1月

①リレーレクチャー

- 基礎を学べる講義
- 公共交通に関する基本的事項 (制度、技術、経営、効果等)
 - 協議会の意義、コーディネーター・活用方法
 - 他分野との連携手法

③ディスカッションサロン

- 講師と直接話ができる
- 講師・受講者同士のネットワークの構築
 - 新しい問題提起
 - スタートアップとのマッチング

②フィールドスタディ

- 現場の実情を体感する
- 実際の協議会を傍聴し体感 (場合によっては手伝い参加も可能)
 - 対応する現場の交通も見学
 - 課題抽出→事業提案

内容検討 (次年度へ)

- 試行結果を踏まえ、次年度の内容へ反映
- **本プログラムは次年度に本格実施予定**
- **<エキスパートレクチャー (実践科目)を追加>**

地域の現場から公共交通の新しい形を
地域公共交通
コーディネーター・プロデューサー
養成プロジェクト

本事業は「現場で」地域の公共交通の改善を実現する人材の養成を目指すプロジェクトです。10月より公共交通に関する講座を一般向けに開講いたします。

これまで、全国の大学・高専の教員がそれぞれ行っていた講座や講演等を体系的にまとめ、自治体の地域公共交通の課題や法定協議会の意義や事業開始に向けて講義するためのプログラムを開発できるようにアレンジしました。ここでの学びを現場で実践したい資格の取得をお待ちしております。

開講期間 2023年10月16日(土)~2024年2月29日(木)
会 場 名古屋大学栄山キャンパス、キックオフ会場
参 加 費 無料

リレーレクチャー
基礎を学べる講座12コマを1日、公共交通に関する多岐にわたる現場の実情を体感する。

フィールドスタディ
講師が参加する協議会の傍聴や、現場での交通も手伝い参加も可能。

ディスカッションサロン
法定協議会や現場に関する課題を抽出し、実際に協議会や事業者とのネットワーク構築を目指す。

プログラム詳細はWebサイト
http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kyoso.htm

リレーレクチャー
フィールドスタディ 申込

さあ、私たちとともに、現場で地域公共交通を改善し、地域を救いましょう!

おでかけ環境の「調整」「組織化」

「補助」「コミバス・デマンド」「ボランティア任せ」でない、**自治体の主体的役割**

・「おでかけ」確保計画の確立

- 「地域の一体感」「住民のQOL向上」「訪問者の利便性確保」のためのネットワークづくり
- 「移動制約者対応」の必要水準と方法の基準づくり (いわゆる福祉交通)
- 「担い手」は問わない(いい担い手が出てくるしくみが大事)

・交通ネットワークの維持発展

- 結節点整備(停留所、ターミナル、駅広、P&R・K&R)
- 共通運賃・共通案内等のソフト的シームレス化
- 事業者間の調整・連携の模索(新たな交通秩序の確立)

・各交通システムのサポート

- 「適材適所」となる運行手段のコンサルティング
- 「計画」に適合する交通機関の公認・広報・案内
- 「担い手」となる事業者・NPO・住民組織の側面支援

これらを「地域公共交通会議」で決め、
「地域公共交通計画」に書き留め共有する

公共交通事業者に必要な3つの力

それを、地域公共交通会議で披露し計画に活用してもらう

・企画力

- 「交通事業の常識は世間の非常識」を出発点に根本見直し
- 固定観念を覆す新たな商品開発
- 現場を持つ労働集約型産業の強みを生かしたマーケティング
- 企画実施と安定顧客獲得に必要な地域とのコラボレーション

・提案力

- 「一皮向けた」商品のPR
- 新企画の仕掛け役
- 地域活性化への取り組み
- 「地球にやさしい公共交通が走る」まちやライフスタイル提案

・サービス力

- 「心地よい移動」をどう提供するか

Think Globally! 一所懸命
適材適所 Act Locally!
Nagoya Univ. Regional Strategy Lab.

SusCoDe 名古屋大学大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

みなさん、ぜひ、地域公共交通を、そして地域を、
日本をよくするために、いまこそ決起しましょう!

世界にひとつだけのバス ひとつひとつ違う役目持つ
このまちを守り育てるために 一所懸命にいればいい
都会のバスや田舎のバス ひとつとして同じものはないから
ナンバーワンにならなくてもいい 適材適所のオンリーワン

加藤博和

検索

質問、問い合わせは下記で

kato@genv.nagoya-u.ac.jp Facebook: buskato
http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm